

2013年度大学生の力を活用した

集落活性化調査委託事業報告書

# 福島県喜多方市 高郷町小土山集落



法政大学現代福祉学部岡崎昌之ゼミナール

## <目次>

### 1. 小土山の概要

#### (1) 小土山集落人口構成

### 2. 2012年度の活動

#### (1) 第1回調査

#### (2) 第2回調査

#### (3) 地域づくりオープンカフェ（中間報告会）

#### (4) 第3回調査

#### (5) 2012年度 まとめ

##### (5)-1 小土山の魅力発信

##### (5)-2 富士山の活用

### 3. 2013年度の活動

#### (1) 富士山の活用

##### (1)-1 富士山の概要

##### (1)-2 活動の背景

##### (1)-3 昨年度の活動

##### (1)-4 今年度の活動

##### (1)-5 小土山地域づくり実行委員会の設立

##### (1)-6 7月の訪問「活動に向けての話し合い」

##### (1)-7 9月の訪問「登山道マップの作成、富士山おにぎりづくり」

#### (2) 小土山魅力発信

##### (2)-1 区民祭

##### (2)-2 区民祭報告&郷土料理講習会（いも床）

#### (3) 活動報告会「地域づくりオープンカフェ」

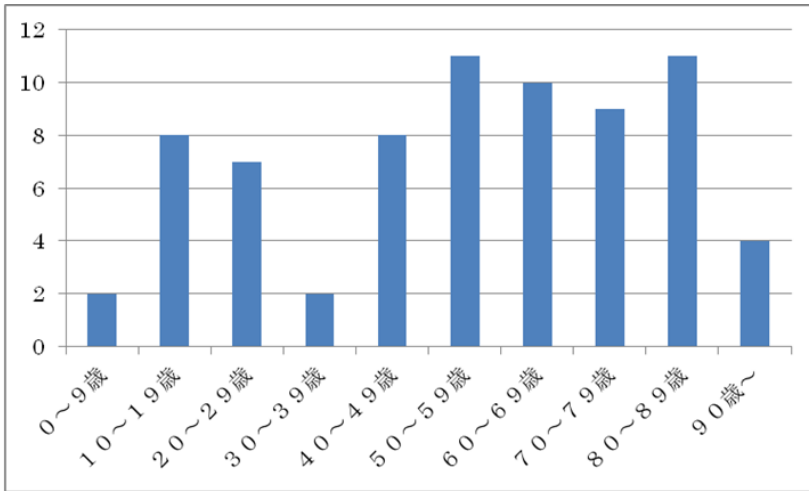
### 4. まとめ

#### (1) 事業参加者の感想

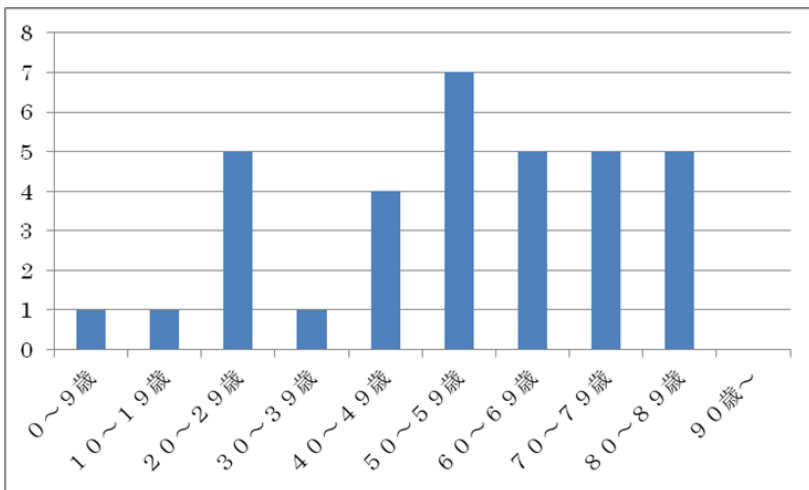
#### (2) 私たちが見た小土山集落

### 5. 終わりに

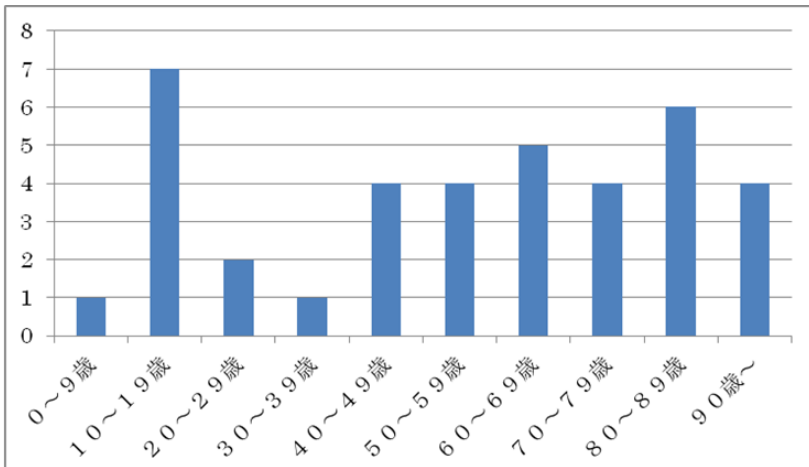




②男性



③女性



## 2. 2012年度の活動

私たちは7月に顔合わせのため初訪問、9月に第1回調査、10月に第2回調査、12月に地域づくりオープンカフェ、そして2月に第3回調査と5回福島に訪問した。調査方法は主にヒアリングで、集落に住む人の生の声を集めた。

### (1) 第1回調査

9月3日～5日、第1回調査を行う。1日目に集落の方との交流会を行い、2日目は終日ヒアリング調査を行った。3日目は集落の方との意見交換会を行い、調査終了。

調査方法は、事前に集落の方へ郵送したアンケート(別添資料)による調査と、許可を頂いた集落の方のお宅へ伺うヒアリング調査。A班(室岡、宮内、川崎)とB班(小林、榊、影山)に分かれて、A班は立岩地区、B班は早坂地区と新田地区を担当し、計7件のお宅に伺った。平日だったこともあり、協力してくださった集落の方の年齢は60代以上の方がほとんどであった。



写真 ヒアリング調査の様子

### 意見交換会

3日目までに私たちが集落の方からいただいた情報をもとに、模造紙に「昔」「今」「これから」を縦の軸として、集落の魅力を「産業」「行事」「人」「自慢」「食」の5つに分けたものを横の軸として分け表にした。ヒアリング調査時のA班はピンク色、B班は黄色、集落の課題点と感じたものは青色、この意見交換会で集落の方から新たに出た意見は緑色のそれぞれ付箋を表に貼った。



写真 小土山のみなさんの声

## ヒアリング調査結果

- ・ 昔は盆踊りやカラオケ大会、映画などを見て楽しかった。
- ・ 盆踊りでは会津磐梯山を踊っていた
- ・ 磐梯山が見えることが自慢である。
- ・ えご（海藻を材料にした寒天）
- ・ いも床（ジャガイモをつぶし漬物の糠にする）
- ・ 自然などありきたりなものではなく小土山にしかないものを探している。
- ・ 堤という棚田に水を引くためのため池が十数か所存在
- ・ 富士山という名前の山（西会津との境界）



写真 意見交換会の様子

## (2) 第2回調査

10月20日～21日、第2回調査を行う。目的は、9月の調査の時にはいなかった若い方からの意見を聞くためである。初日は「ほろよい談話会」と称して交流会を開き、若い方から小土山のお話を伺った。その後は 集落内にあるため池（堤）の散策を行い、9月よりも更に小土山の魅力を肌で感じる調査となった。その後県の職員の方も加わったミニ報告会を行い、今後の調査と12月に行われる「県民討論会」の打ち合わせを行った。



写真 ほろよい談話会の様子



### (3) 地域づくりオープンカフェ (中間報告会)

12月22日、福島市で本事業の中間報告会である「地域づくりオープンカフェ」が開催され、私たちも喜多方市高郷町小土山を担当した代表として参加した。当日は、事業に参加している他大学の発表を順番に聞いていくというポスターセッション形式で、持ち時間は各地区で5分。私たちが今までにしてきた調査の内容や集落の現状、今後していきたいことなどを分かりやすく端的にまとめ発表した。報告会の後、集落の方・学生も交えた質問会を行い、他大学の調査内容から、自分たちにも活かせることを学んだ。



写真 地域づくりオープンカフェ

### (4) 第3回調査 (雪かきボランティア)

2月1日～3日の3日間、「冬の小土山の生活を体験する」という目的で3回目の調査を行った。今回の調査では、年度末の報告書及び提案に向けての話し合い、雪かき、交流会を行った。また、1年間の調査をまとめ私たちから集落への提案を行い、集落の方と意見を交換した。



写真 雪かき後 (左)、1日目の話し合い (右)

### (5) 2012年度 まとめ

これまで述べてきたように、私たちは7月から計4回集落へ訪問し、小土山の活性化に向けてのお手伝いをしてきた。約1年の調査を終えて私たちが今後に向けて行っていきたいことを提案した。①小土山の魅力発信、②富士山の活用、③盆踊りの復活、④堤マップ

の作成の4つである。その中で、2013年度の活動に向けて①と②の提案を述べていきたいと思う。

#### (5)-1 富士山の活用

「富士山」と書いて、「ふじさん」と呼ぶのは、ここを含めて全国で3ヶ所だけである。現在、富士山から立岩山を通り、温泉保養施設ふれあいランド高郷まで抜けられる山道を整備中であり、富士山はその入り口でもあることや、誰でも登山を楽しめるといったことは魅力的ではないかと考えた。本来であれば10月の第2回調査で富士山に登頂する予定であったのだが、クマ被害が後を絶たず断念したので今年度私たちはまだ富士山に登っていない。そのため、現在富士山に関する情報はまだまだ少ない。

来年度に向けて、「富士山の活用」というテーマですすめていくにあたって私たちが考えていることは、境である西会津との連携、登山道のマップを作る、イベントを開催して人々を呼ぶことである。12月の地域づくりオープンカフェで、西会津を調査した宮城教育大の方と名刺を交換したこともあり、ぜひ来年度は協力をして、「富士山」という共通の魅力を活かして活性化していきたいと考える。

#### (5)-2 小土山の魅力発信

私たちは、小土山には「景観」と「食」という魅力が多いと感じ、この二つの魅力をぜひ集落内だけでなく色々な方に知ってほしいと考え、小土山の魅力を発信していくことを提案としてあげたい。

まず、小土山の「景観」についてである。ここからは立岩山、富士山、棚田、堤、山菜などを評価した。もうひとつは集落が高い高度に位置するという点。これにより、集落のいたるところから磐梯山が眺望できる。さらには早朝に雲海を望めることも評価に値するだろう。

小土山魅力発信を具体的にどのように行っていくのかということであるが、まずひとつとして学祭の活用というものを提案した。地域の方々から小土山でよく食べられている、こづゆ、えご等といったものの作り方を教えて頂き、学祭出店用に地元の方々と試行錯誤をしながらアレンジをしていくというものである。東京に住む学生たちや学祭に遊びに来る人がそのような食に触れることによって、食べる側としては小土山の食に関する魅力を感じ、作り手としては、いつも当たり前のように食べていたものが実は価値のあるものであるということに気付くきっかけになる。

次に、小土山の皆さんが選ぶNo.1の景観の写真を提供して頂いて、学祭での食の販売と共にスライドショーでその写真を流すことにより、野菜売り場でその野菜がどこで誰が作ったのかということが明記されていることでその野菜に信頼感が生まれるという魅力と同じように、「食」と「写真」を一緒に提供することによって魅力がより伝わるのではないかと考える。



### 3. 2013年度の活動

#### (1) 富士山の活用

##### (1)-1 富士山の概要

山名：富士山（フジサン）

標高：508.8m 立岩山（タテイワヤマ）430m

山城：会津国境山脈

山行形態：登山道

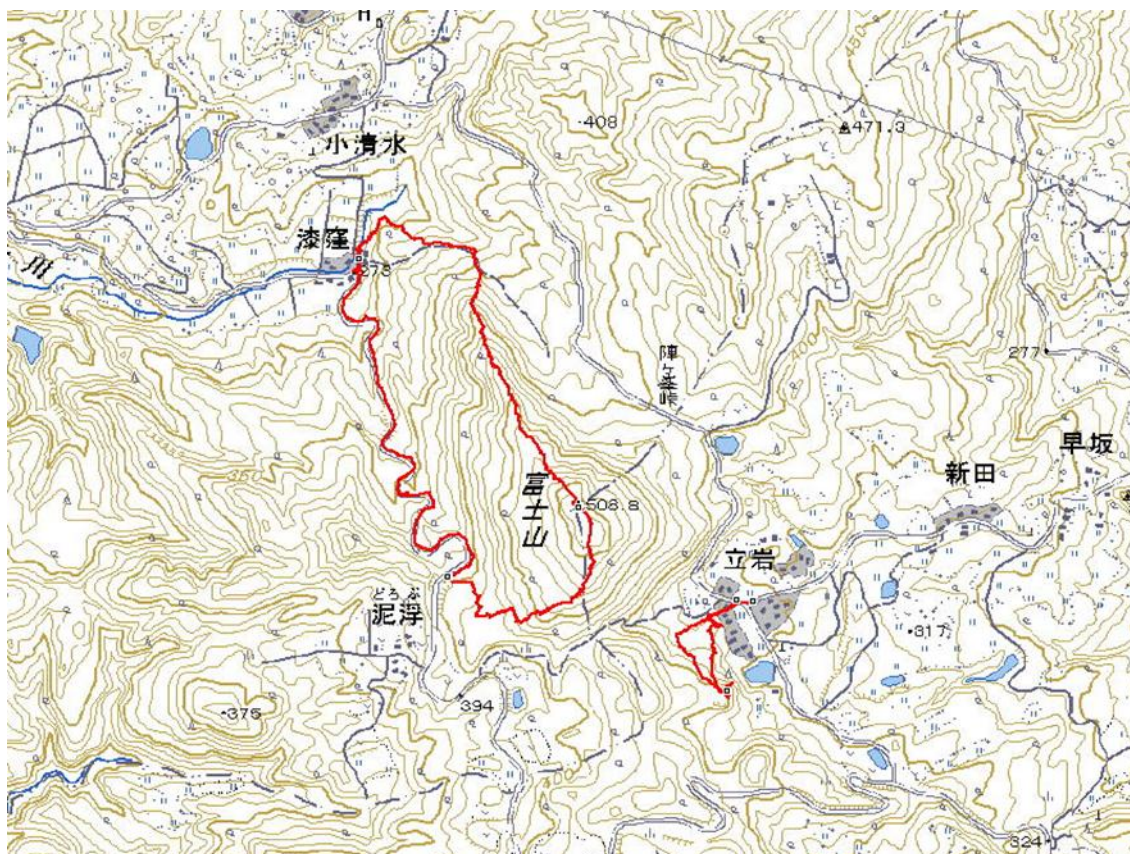
登山口：喜多方市高郷町立岩／立岩口 西会津町新郷 泥浮口 漆窪口

山行時間：立岩登山口から30分

最寄り温泉：ふれあいランド高郷

最寄の駅：JR 磐越西線 荻野駅または上野尻駅

その名は正真正銘の富士山である。西会津町新郷富士地区にあるから付いた名前なのか山名から地区名が付いたのかは分からない。例年8月7日に山頂の富士権現をお参りする風習は今は無くなってしまったようである。陣ヶ峰峠で高郷村磐見地区と分かれるが、近くの立岩山と背比べをして富士山が勝ったとの伝説があると言う。手軽に登れる山であるため富士山と立岩山の両方を一緒に登山することが望ましい。2013年「富士山」が世界遺産に登録されたこともあり、小土山の富士山もPRする機運が高まっている。



(1) - 2 活動の背景

この「大学生を活用した地域活性化支援事業」を行うきっかけとなった一つに、H23年度に富士山の活用における登山道整備を始めたことがある。そこに若者の発想と地域との連携で富士山を資源に地域づくりに取り組もうという機運が高まっていた。

(1) - 3 昨年度の活動

これに対して、昨年度は私たちも関わらせていただき、小土山の富士山の活用を地域活性。昨年度は実際に富士山登山はできなかったが、地域の方にお話を伺ったり、登山道入り口をみせていただく中で、いくつかの気づきを得られた。

一つは富士山登山道マップ、案内板等がないことだ。この富士山の活用の目的は、ひとつの観光スポットとして観光客などに来てもらい、小土山の魅力を伝えることである。実際に写真家の撮影スポットであったり、小学校の遠足で定期的に人々が訪れているというお話を聞いた。しかし、私たちが活動する中で、登山道や富士山に関する情報の案内板がないことに気づいた。立岩地区の三叉路に立岩山に関する案内板はあるが、富士山に関するものはなかった。そこで、この案内板の作成を提案させていただいた。また、富士山登山道の入口には「富士山立岩登山口」と書かれた看板があるのだが、その付近に「熊出没注意」と書かれた看板もあった。確かに注意すべきことなので大事なことだが、入口看板の横にあっただけに「富士山＝熊がでる」というイメージをもってしまうのではないかと感じたので、位置を少しずらしたり、別の方法で周知してはと提案させていただいた。



写真 立岩山の看板



写真 立岩登山口の看板

二つは西会津町との連携である。この富士山は山頂を境に小土山と隣の西会津町とに分かれており、登山道には立岩登山口と西会津町の富士地区登山口の2つのルートがある。また小土山と同様に西会津でも富士山の活用を考えており、奇しくも宮城教育大学の学生

が定期的に地域へ入っている。そこで、富士山の活用をこの二つの地域で連携し合うことで、よりよい活用が期待できるのではないかと考えた。

昨年度は実際に富士山に登山するまでには至らなかったが、マップの作成や西会津との連携などの提案は翌年の活動に向けてのきっかけになった。

#### (1) - 4 今年度の活動

昨年度の活動を踏まえて、今年度も引き続き富士山の活用について取り組ませていただいた。主な活動スケジュールは①7月16日(火)、17日(水)と②9月28日(土)、29日(日)の4日間である。

表1 活動スケジュール

日程	内容	参加者
7月16日(火)、17日(水)	今年度の活動に向けての話し合い	影山(3年)、田辺(3年)、室岡(修士1年)
9月28日(土)、29日(日)	マップ作成、稲刈り、富士山おにぎりづくり	川崎(4年) 田辺(3年)、近藤(2年)、室岡(修士1年)

#### (1) - 5 小土山地域づくり実行委員会の設立

今年度の活動にあたってまず触れておきたいのが、「小土山地域づくり実行委員会」の設立である。初年度の受け入れは、区として受け入れて頂き、その窓口は区長さんにあった。しかし、今後のことや持続的な活動を視野にいれ、新たに地域づくりの主体をつくり、学生の受け入れや活動を行うための実行委員会が設立された。委員長には橋谷田弘由さんが就いた。

#### (1) - 6 7月の訪問「活動に向けての話し合い」

今年度は7月が初めて訪問だったため、まず昨年度の私たちの提案と地域のみなさんとの方向性のすり合わせを行った。この話し合いにより、今年度の取り組みとしては2つに取り組むことが決まった。一つは富士山の活用である。こちらに関しては当初より地域として取り組んでいたことであるため、引き続き関わらせていただくことになった。二つは小土山の魅力発信についてである。ここでいう私たちが伝えたい小土山の魅力とは主に「食」についてである。昨年度の活動しているなかで地域のみなさまにふるまっていた小土山の食に関心をもった。例えば、えご、芋どころ、こづゆ、蕎麦、お米などである。それらを活用することで小土山の魅力を発信していきたいということである。魅力発信の詳細に関しては本文の後半にまとめたい。

#### (1) - 7 9月の訪問「登山道マップの作成、富士山おにぎりづくり」

7月の活動をもとに、9月には登山道マップの作成、稲刈り体験、富士山おにぎりづくりの3つに取り組んだ。



## ① 稲刈り体験

28日のお昼過ぎに小土山集会所に到着した。この日にまず行ったのが、稲刈り体験である。収穫の時期はすでに終盤にかかっていたが、私たちのために少し残していただいていた。場所は橋谷田憲悦さん所有の田んぼである。最初に地域のみなさまからレクチャーをいただいた。ご指導いただいているときの地域のみなさんの表情は真剣で、そのなかにも楽しみながら丁寧に作業している姿が印象的である。ご指導ありがとうございました。私たちは鎌の使い方だけでなく、体さばきや稲の束ね方など、学生にとってはほぼ初めてのことばかりであった。また、稲穂が倒れてしまうとセシウムの濃度があがってしまうという震災の影響がまだ残っているというお話も聞くことができた。レクチャーをもとに田んぼの隅から作業に取り掛かった。刈るごとに田んぼの中に入っていき、ぬかるんだ地面に足をはまらせて抜けなくなった学生もいたり、とにかく必死に作業する学生もいたりときまざまであったが、地域のみなさまとも楽しく活動させていただき、みんなで取り組む協働の時間となった。



写真 稲刈りの指導を受ける



写真 刈り取った稲をまとめたもの



写真 稲刈り後の集合写真

## ② 富士山おにぎりづくり

29日の午前中に、地域のみなさんと学生とで「富士山おにぎり」づくりを行った。背景には富士山の活用を食の視点から行うことはできないかという地域のみなさまからのご意見がきっかけである。富士山にちなんだおにぎりをつくり、今後外からいらっしゃった方をもてなすときにお出しできればという案もでた。今回のおにぎりづくりには特に地域のお母さん方にご協力いただいた。ご飯の準備やおにぎりに巻く紫蘇の葉の準備やおにぎ

りの中に入れる味噌の仕込みなどを事前に準備していただいた。この場を借りて改めてお礼申し上げたい。

富士山おにぎりのレシピ

- ・ ご飯
- ・ 紫蘇の葉（塩漬けにしたもの）
- ・ 味噌



写真 おにぎりづくり



写真 富士山おにぎり

### ③ 富士山登山道マップの作成

28日の稲刈りの後に、富士山登山道マップについての話し合いを行った。この際に、橋谷田弘由さんからマップのイメージ図を教えていただいた。そのイメージ図をもとに、29日に学生と地域のみなさまで集まり、話し合いながらマップに必要な事項を追加していった。そのときに出た意見は以下の通りである。完成した案内板は現在小土山地区内に設置されている。

#### 【話し合い】

##### ○富士山マップ

- ・ 立岩山（雷山）という表記にする
- ・ もみじ台、高平展望台などから磐梯山が見えるので写真を看板に使いたい  
⇒季節ごとに写真の入れ替え（写真を公募出来るようになったらなおよし）
- ・ 陣ヶ峰峠（新撰組、陣跡）
- ・ 登山口の標高も記載する（390m）



写真 マップのイメージ図



- ・幅広い案内を入れる
- ⇒「ここを行くと温泉」というような
- ・看板：富士山（〇〇登山口）
- ・駐車場、温泉にも看板を置く
- ・清掃登山（→年2回くらいボランティアとして人を呼んで、参加費500円で食事と温泉）
- ⇒子供をターゲットとして「〇〇が清掃活動をしました」としたら注目されるのでは？

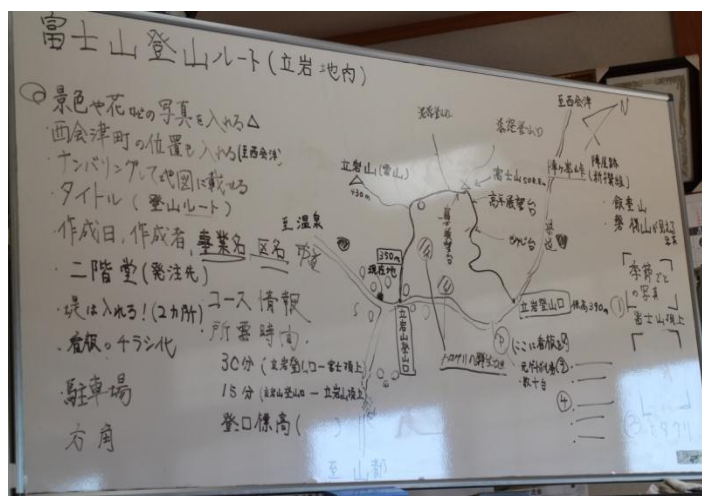


写真 情報を追加した案内マップ

富士山登山道マップ(案)に関して、以下に項目を記す。

- ・ナンバリング
- ・景色や花などの写真を入れる
- ・西会津町の位置を入れる
- ・作成月日、作成者
- ・ナンバリングして地図に載せる
- ・タイトルをつける
- ・等高線
- ・堤も載せてはどうか
- ・集落名を載せる
- ・駐車場の位置を載せる
- ・方角を載せる
- ・コース情報
- ・所要時間
- ・注意点
- ・やまびコスポート



写真 集合写真

#### ④ 富士山ツアーの開催

富士山をいろんな人に知ってもらいたいという目的で、富士山ツアーを企画・開催した。ツアー名は「富士山・立岩山・紅葉トレッキングツアー」。企画の実行は地域のみなさまが主体的に行ったが、企画立案の段階では学生も関わらせていただいた。開催日時は11月17日(日)。時間は9:00~13:00。募集対象は富士山、紅葉、トレッキングに関心のある方とした。広報は喜多方市内の自治会へのチラシの配布を行った。参加料金は1500円(食

事代、入浴代、保険料込)。当日のスケジュールは①9:00にふれあいランド高郷へ集合②温泉バスで富士山登山口へ③富士山登山→立岩山登山④歩いて温泉施設へ⑤昼食、入浴⑥解散という流れである。

当日は10名程度の参加者であった。参加者の所属は主に市内の方であったが、登山家や写真家の方々には、一度は富士山に登ってみたいという思いがあるようだ。しかし、今回は広報のタイミングが開催直前になってしまったため、十分な参加者が見込めなかったが、周知方法等の改善により、より大勢の方々に来てもらえるという期待がもてたようだ。また、ツアー自体の開催は小土山地区としては初めての試みとなり、開催できたこと自体、地域の方々にとってはうれしいことだとおっしゃっていた。

# 富士山 立岩山 紅葉トレッキング

○11月17日(日)9:00~13:00

○対象:富士山、紅葉、トレッキングに関心のある方

○広報:喜多方市内の自治会へチラシの配布

○料金:1500円(食事代、入浴代、保険料込)

○スケジュール

- ①9:00ふれあいランド高郷(温泉施設)集合
- ②温泉バスで富士山登山口へ
- ③富士山登山→立岩山登山
- ④歩いて温泉施設へ
- ⑤昼食・入浴
- ⑥解散

主催:(株)喜多方市ふるさと振興高郷事業所、小土山区

参考資料

HP 会津名山案内 <http://aizunogakujin.web.fc2.com/fujisanroad.htm>

## (2) 小土山魅力発信

### (2)-1 区民祭

11月3日、神奈川県横浜市戸塚区の区民祭にて小土山米を出店した。この出店には、集落の方が2名、学生6人が参加した。小土山米は、500mlペットボトルに3合分のお米を詰めて手に取りやすい形に工夫して55本を用意しすべて完売となった。ラベルには小土山集落で撮影した風景写真（小土山集落から見た磐梯山と棚田）を利用し、お米と同時に小土山集落の自然の豊かさも伝えられるようにした。このお米は食味ランクで特Aを獲得したもので、購入した方から後日「おいしかった」と手紙が来るほどだった。また、お米の試食と一緒に出したいも床で漬けたきゅうり・かぶがとても好評だった。しかし、芋どこの販売はしていなかったため、今後は販売できるような準備が必要だと感じた。さらに、「富士山」という文字に興味を持ってくださる方が多く、世界遺産に登録された富士山と異なることを説明すると、「知らなかった〜」と驚いていた方もいたので、今後小土山集落の魅力の一つとして大きな強みになると感じた。

区民祭を終えて、小土山集落のお米・いも床の漬物である「食」と富士山や磐梯山、棚田などの景観の「写真」を一緒に提供することが出来たと感じられた。そして、県外への小土山集落アピールのための定期的な出店と販路の拡大が必要になってくると考えられる。また、小土山米をペットボトル販売からパッケージを作り付加価値を高めて販売していくことで、より小土山米の魅力化に努めていくことが課題となってくる。



写真 小土山米のペットボトル (左) といも床 (右)





写真 区民祭の様子

## (2) - 2 区民祭報告&郷土料理講習会 (いも床)

11月18日には、区民祭の様子を集落の方に報告を行った。学生側からは、区民祭での小土山米の売れ行きやいも床の漬物がとても好評であったこと、富士山に興味を持ってくれた方が多かったこと、磐梯山や棚田・雲海などの小土山の景色が人々の目を引いたこと、区民祭での出店が小土山集落にとって県外アピールの第一歩となったことなどお話しさせてもらった。その後は、集落の方たちと区民祭で得た成果や準備段階での反省点、今後の小土山の魅力発信をどう行っていくかを話し合う場を設けた。その中で成果としては、風評被害に対して安全性をアピールし小土山米が完売できたこと、いも床が想像以上に好評で集落としては大きな発見になったこと、これまでの活動の中で初めて販売という目に見える形で集落と学生が協力して県外への発信が出来たことなどが挙げられた。反省点としては、準備期間が短く連携がうまくいかない部分があった、いも床の漬物を試食という形でしか提供できなかったことなどが挙げられた。今後については、区民祭で販売への可能性と手応えを感じたので小土山米のラベルの改良やいも床の販売を行っていく、販路拡大のためにも県外のイベント等に積極的に参加をしていくなどが挙げられた。また、今回の販売が県外への小土山の魅力発信への大きな一歩であり、これからの活動に繋げていくことが必要だという意識の共有が出来た。

19日には、区民祭で好評だったいも床の作り方を集落のお母さんたちに教えていただいた。蒸したじゃがいもを潰し、塩、砂糖、カラシを混ぜて作るだけであったが混ぜるのも蒸しているのじゃがいもは熱く混ぜにくかった。カラシを加えると匂いがキツく、学生が交代しながら混ぜていた。いも床は、冷蔵保存で一年ぐらいは持つということなので小分けにさせていただき、学生が自宅でいも床の漬物を試せるようにいただいた。



写真 いも床づくりの様子

### (3) 活動報告会「地域づくりオープンカフェ」

2月1日にホテルサンルートプラザ福島にて活動報告会「地域づくりオープンカフェ」に参加し、2012年度から今年度の活動と課題点、今後の活動に向けての提案等をPowerPointという形式で報告させていただいた。当日は10の大学生グループが集まり、福島県内の集落での活動報告をそれぞれ行い、意見交換や集落のアピールなどの時間もあり有意義な報告会となった。小土山集落としては、いも床の漬物を中心に集落アピールをした。また、富士山への取り組みについて、西会津町の漆窪集落に入っている宮城教育大学の方と交流を持つことができ、今後の活動への収穫があった。



写真 集合写真（左）と小土山集落の展示ブース（右）



## 県の集落復興支援事業

県内で過疎・中山間地域  
の集落活性化に取り組んで  
いる県内外の大学生らは31  
日、県庁で佐藤雄平知事を



## 学生が取り組み紹介

シイ氏友

佐藤知事を前に集落の活  
性化策などを紹介する大  
学生ら

表敬訪問し、学生らがこれ  
までの取り組みなどを紹介  
した。

県の「大学生の力を活  
用した集落復興支援事業」  
で活動する福島大や宇都  
宮大、法政大などの10グル  
ープの代表者らが出席し  
た。各集落での取り組み成  
果などを佐藤知事に報告し  
た。

学生らは取り組みを通じ  
て気付いた課題などを紹  
介。佐藤知事は「過疎化が  
進んでいる場所が多い。こ  
の交流をできる限り続けて  
ほしい」と学生らを激励し  
た。

\* 報告会前日（1/31）に行われた知事表敬時の様子

#### 4. まとめ

##### (1) 学生コメント

今年度も大変お世話になりました。私たちが小土山へ伺った際には、お忙しい中にも関わらず、草刈区長さんをはじめ、地域のみなさまには毎回快く受け入れていただいたことに感謝しております。集会所へ着くとみなさんに「おかえり」、東京に帰るときには「いってらっしゃい」と言っていただけたときには、とてもうれしかったです。また、市役所の佐藤さんにも毎回の送り迎えや活動に対する助言など、私たちを見守っていただいたことに大変感謝しております。

今年度は昨年度の調査をもとに提案の実現にむけて取り組ませていただきました。富士山ツアーの開催や区民祭への出店など、小土山としては初の試みが多かった年だと思いますが、その一歩前進に私たち学生が少しでも関わることができてよかったですと思います。来年度は、是非ともこれらの活動をさらによりよいものにできるよう私たちもできることに取り組みたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

(室岡康平)

私個人として、今年度は集落へ訪問する数は少なかったものの、訪問の度に非常に身のある経験を沢山させていただいたように思います。東京で20年以上暮らしている私にとって、小土山集落はもう一つのふるさとのようなとても大事な場所です。特に、今年は戸塚区民まつりにおいて小土山集落のお米をPRするという機会があり、非常に多くの方に小土山集落はじめ福島県のお米の美味しさを提供する事ができたことが特に印象深いです。今まで集落の方に教えてもらい私たちが体験するということが主で、集落の方と一緒にお米をPRするという事は初めてだったのでとても新鮮な気持ちで取り組むことができたと思います。最後の一本が売れた時の達成感は忘れられません。2年間小土山集落と真剣に向き合い考えてきた経験を糧に社会人になっても頑張りたいと思います。多くの方のご協力があって、この事業を進めることが出来ました。本当にありがとうございました。

(榊絵美)

私はこの福島県集落復興支援事業に参加することで本当に良い経験が出来ました。最初はこれほど大きな事業に携わる事が今までになかった為、正直悩むことが多くありました。しかし、担当地域が小土山に決定して現地を訪れてみると、一気に気持ちが前向きになりました。それは、小土山が私の地元である鹿児島県伊佐市と雰囲気が似ていたことや地域の方が私たちをおもてなししてくださったことが心に響いたためです。活動では一年目はまず、地域について知る事を中心にまちの歴史、伝統的な食文化や観光のポイントなどの調査をして、地域の魅力を多く見つけることが出来ました。そして、二年目は一年目に見つけたまちの魅力を活かして「小土山」をアピールしていくという事を目標に地域の案内

を作成や他地域での小土山産のお米の販売などの活動をしていきました。二年間を通して、地域の方との繋がりも深くなり、まちを訪問するたびに小土山に愛着が湧きました。ここで知った素晴らしい環境や出会った沢山の方々が私の宝物です。最後に福島県復興支援事業に関わって下さった全ての方に感謝します。本当にありがとうございました。

(川崎志帆)

私が小土山集落での活動を通じて学んだことは、人と人とのつながりの素晴らしさです。初めて集落へ足を運んだ時は、私たち学生と集落の方々はあまり打ち解けられなかったと思います。しかし、何度も訪問することにより絆が深まったように感じました。私は集落の方に小土山集落に訪問した際、「おかえり」とあたたかい言葉をかけていただいたときの気持ちを今でも忘れられません。いつの間にか、小土山集落は私にとっての故郷になりました。昨年行われた戸塚区民祭で小土山集落の魅力を外へ発信することが出来、とても嬉しかったです。このように学生が集落から外への架け橋になることは大切だと思いました。小土山集落の方々に出会えたこと、集落で過ごした時間は私にとっての宝物です。人・景観・伝統と全てが素晴らしい小土山集落とのつながりを、私は大学を卒業しても大切に生きていきたいです。

活動するにあたり、お世話になった小土山集落の皆さま、福島県役員の皆さまに感謝いたします。

(宮内絵里)

初めて小土山集落を訪れたのは、2012年度の第一回調査の時。集落に入って活動するのは未経験者だった私は、とても緊張していたのを今でも鮮明に覚えています。そんな私に優しく言葉をかけてくれた集落のみなさん。集落の優しさを感じました。一年目の活動はそんな優しさと先輩方に甘えさせていただきながらゆっくりと小土山の魅力を感じていました。世界遺産ではない富士山があること、いも床の漬物の美味しさ、四季をしっかりと感じられる風景の素晴らしさ。活動のリーダーとなり迎えた2年目では、私自身が感じたその魅力を、区民祭を通して県外へ発信出来ました。2年目にしてようやく、集落の方々と学生が一つの目標に向かって前を向き、進み、結果を残せたことは、大きくそして新しい一歩になりました。

2年間の活動で、「人」は、「人」に出会い、支え、支えられ、繋がっていく。そんな当たり前のようでなかなか気づけない大切な時間があるということを学ぶことが出来ました。それも、集落を訪れるたびに「おかえり！」と迎えてくださった集落の方々をはじめ、私たちの活動を支えてくださった福島県庁の皆様、喜多方市役所の皆様に出会えたからです。この事業に関わるすべての方に感謝いたします。

(影山卓也)

初めて行った際、途中からの参加ということでどんな方々がいるのだろう、どんな風に会話をしたらいいのだろう、受け入れてもらえるのだろうかと不安もたくさんあったのですが、皆さんに暖かく迎えて頂き、そして何より名前を憶えて頂けたことが本当にうれしかったです。そして、小土山に着くと「おかえり」、小土山から帰るときには「いってらっしゃい」と言って頂いた時には、感動し、私にとって第二の故郷になりました。

また、東京出身で東京育ちの私にとって小土山は自然が豊かで、何より景色がとても綺麗で、特に朝見た雲海は感動しました。都会にいとどうしても視覚で四季を感じる事がなかなかできません。しかし、小土山に行くと五感で四季を感じる事ができ、私にとってはそういったことも魅力的でした。

事業としては今年度で終わりますが、これからも是非何らかの形で関わり続けていきたいです。2年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

(田辺愛)

2012年度は、前年度から定期的に活動を続けてきたため集落の方との関係性をより深めつつ、その中で田植え作業のお手伝いや集落内の雪対策のお手伝い、陣屋跡の探索、集落の食文化を体験しながら学ぶ芋どころ作りを行った。また、小土山のお米を他地域で販売を行い、魅力発信のため、神奈川県横浜市戸塚区の区民祭で実際に集落のお米を販売し見事完売することができた。前年度は集落の方が本当にやっていきたいと思っていることを、私たち学生が把握できていない部分があったが、今年度は集落の方を中心に活動を行うことができた。

今年度、私は全ての日程には参加できなかったが、それでも参加した時には集落の方が温かく受け入れて下さり、集落の方の気持ちに全力で応えたいという気持ちであった。集落の方のニーズ把握は非常に難しいが、地域活性化のためにはあくまで集落の方を中心にするということは忘れてはならないことであって、今年度は実際にお米を販売してみたりと、地域の方が積極的に働きかけてくれたりして、集落の方の自信につながったと共に、私もその姿を見て、より頑張っていこうと思うことができました。

(秋葉剛)

(2) 私たちが見た小土山



「小土山集落のみなさんへのヒアリング調査」  
集落について語る皆さんの笑顔が輝いていました。







「小土山集落の美しい景観」

私たちはその美しさに思わず息をのんだ。



### 「集落の魅力を外へ発信した戸塚区民祭」

地域とのつながりがさらに深まった。

#### ◆小土山区長・草刈さんのコメント◆

法政大学の皆さんがこの集落復興支援事業を始めて下さって我々は自分たちの地域の魅力を見つけることが出来ました。そして、戸塚区区民祭での経験を活かして地域のお米の販売を拡大したいというこれからの目標ができ、地域の新しいマップを作ることによって他地域との繋がりもできました。まちの人々も法政大学の皆さんが小土山に来てくれて喜んでいました。

## 5. おわりに

### 謝辞

本報告書を提出するにあたり、調査にご協力してくださった喜多方市高郷町小土山行政区長の草刈保美さんをはじめ、小土山地域づくり実行委員会の皆様、集落の皆様には大変お世話になりました。

また、喜多方市総合政策部企画政策課過疎地域集落対策室長の佐藤義弘さん、福島県庁地域振興課の戸倉毅さんをはじめ、喜多方市および福島県の職員のみなさまにも、サポートしていただきました。

この度の調査から報告書作成に至るまで、本当に多くの皆様にご協力いただいたこと改めて御礼を申し上げ、私たちの報告書とさせていただきます。